

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1270401118 | | |
| 法人名 | 有限会社 リナ | | |
| 事業所名 | グループホーム 星の里 | | |
| 所在地 | 千葉県若葉区野呂町738-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年3月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年6月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所 | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年3月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>。周りが田んぼと森林と自然がいっぱいで空気がとても良く静かな環境の中で生活できます。 。散髪を無料で提供しています。 。健康状態に合わせ早めの受診に心がけて通院を無料で提供しています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>職員の定着率が高く、経験年数も長いので安定したサービスの提供につながっていると思われる。ホームは共用空間も居室も清掃が行き届いており、利用者が気持ちよく過ごせるように配慮している。また、ホームには菜園があり、かぼちゃ、トマト、なす、すいか、金柑などをとっており、近隣からの差し入れの野菜とともに食事のメニューに加わることもある。地元出身の職員が多く、地域の花火大会なども一緒に楽しむなど自然に地域との交流ができています。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフ一人ひとりが理念を頭に入れ理念を活かしたケアに心がけている。毛筆で大きく書き見やすい場所に標示し職員が自然と視線が行くように掲示している | 地域密着型サービスであることから「認知症により自立した生活が困難な入居者に対し地域の人の協力を得て安心と安定した生活を支援する。」の理念を掲げている。管理者と職員は会議などで確認しあっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の花火大会や図書館でのお話会に参加したり、季節の野菜や果物のおすそ分けも相互で行なっている。散歩時に挨拶をし、日常的に交流している。 | 地元出身の職員が多く、自然に地域との交流ができています。木の剪定をしてもらったり、一緒に花火大会を楽しんだり、時には野菜を届けてくれる人もいます。 | 地域から更に必要とされるよう、ホームの事情を広く発信したり、ホームの持つ専門的知識や能力を活用するなど地域への積極的な働きかけが期待される。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で「認知症を理解する」話し合いをした。運営推進会議を通じて理解して頂けるよう取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。施設の状況報告をし、その後課題を決め意見交換を頂きサービス向上に努めている。 | 自治会代表、地域包括支援センター職員、地域住民代表、利用者家族などが参加して2か月ごとに開催している。例えば老化に伴う体の衰えについてなどをテーマに活発な意見交換をして、サービス向上につなげるようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の社会援護課の担当者と連絡を取り、情報交換をしながら、協力関係を築いている。定期的に社会援護課に訪れている。 | 市の担当者や地域包括支援センターとはさまざまな相談や情報交換をするなど関係性ができている。地域包括支援センターは運営推進会議のメンバーでもあり、いろいろな意見をもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを心がけ取り組んでいる。日中は玄関に施錠せず自由に入り出来るようにしている。 | 身体拘束廃止委員会を設置しており、身体拘束を行わないでケアをする工夫を意見交換しながら実践している。現在身体拘束の事例はない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者は職員に虐待が見過ごされないよう日頃から職員に注意を呼び掛けている。ホーム内で虐待防止について研修を行い学んでいる。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度は今までに何人かの人が利用しているので必要な方には連携し、活用できるように支援していく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、契約書、重要事項の内容を十分に説明し理解納得を得てから契約を結んで頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置している。利用者や家族等が意見、要望を言いやすい雰囲気作り努めている。意見、要望は早めに対応している。苦情受付を明確に示して掲示している。 | 家族とつながりのある利用者が少なく、なかなか家族等の意見を聞く機会はないが、利用者が意見をいいやすい環境をつくるように心がけ、要望等は反映するようにしており、ユニットの変更をしたこともある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り意見の言いやすい職場になるよう心がけている。昼休み随時意見・提案を聞き運営に取り入れている。 | 非常勤職員が多く、また、夜勤専門のスタッフもいることから、管理者は職員同士のコミュニケーションにも配慮し、意見を聞くようにしている。シフトや備品購入などの意見も多く出ており、反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすいよう個々の勤務予定を把握し柔軟に対応している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人外の研修に参加できるようシフト等配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の認知症高齢者グループホーム連絡会主催の研修に参加し同業者との交流作り、サービスの質を向上させる。 | | |

【評価機関】

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 声かけしながら本人が困っている事、不安な様子を観察。信頼関係作りに努め安心してその人らしく生活できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時、これまでの生活状態、家族の不安、要望等良く聞き安心して出来る様努める。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族等の思いを傾聴し出来る事を見極め支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 今までの生活状況を把握し出来る事は一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | イベント事には声かけをしている。状態の変化、状況など連携、相談をしながら共に本人を支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所前の近隣の友人が訪ねて来たり、一緒に食事、買い物に行ったりしている、関係が途切れないよう訪問しやすい環境作りに心がけている。 | 昔からの友人の来訪を歓迎し、友人と一緒に外出に出る、家族とお墓参りに行くなど馴染みの関係が途切れないように支援している。また、時には手紙を出してほしいと頼まれることもあり、対応している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し席を決めている。訴えがあったりトラブルがあった時はすぐ対応をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退職した後も電話相談に対応したり訪問に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所前の生活情報をもとに日常の会話の中で本人の思いや希望を把握できるよう努めている。 | リビングのソファに利用者が一人である時や食事の時間などに利用者の思いや要望などを聴くようにしている。また、ホームではアセスメントツールとしてセンター方式という書式を取り入れており、利用者の言葉を赤字で記入するなどし、情報の共有を図っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人家族等から生活歴を聞きこれまでの暮らしを職員が把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活リズムを把握し、現状維持に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員・家族・本人から情報を聞き介護日誌や記録を反映させ介護計画を作成している。変化のあった時と6か月に1度介護計画の見直しを行っている。 | 聴き取った利用者の思いや意向、職員の気づき、様々な記録からの情報を基に、介護計画を作成している。また、定期的なアセスメントやモニタリングで計画の見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子など細かく個別に介護記録に記入している。職員間で情報を共有できるよう話し合いを密に行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の通院・専門医への通院・入院・退院等の支援などその時々生まれるニーズに柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの慰問、図書館のお話会、地域消防署に避難訓練等の協力をしてもらい安全で楽しい暮らしができるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医への希望があれば職員が支援している。週1回訪問歯科による適切な医療を受けられるように支援している。 | ほとんどの利用者が主治医をホームの協力医にしている。利用者の健康管理は職員が日常の様子を見ながら行っており、変化が見られた時は早い段階でホームが受診対応を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護支援専門員が看護師で有る為、日常、体調変化等問題が起きた時には相談し、利用者が適切な受診を受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院・退院の時互いに書類で情報交換している。可能な限り面会に行き病院関係者との情報交換相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医師との連携を密にとり、ホームで『出来る事』を本人・家族等と話し合い、ホームでできる最良な援助につなげるよう支援している。 | 現時点ではホームの方針として看取りは行わないこと、重度化した場合に医療行為が必要になった時点でホームでの支援は難しいことを家族に説明し、利用者にとって最良の生活ができるよう医療関係者を交え話し合うようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時のマニュアルを備えている。普通救命講習に参加、実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は昼・夜を想定して年2回行っている。訓練は回数を重ねる度に早くなっている。地域の方との協力体制は築いている。 | 年に2回の避難訓練は日中、夜間を想定している。火災の時は大声で周りに知らせたり、迅速な行動がとれるよう時間を計りながら実施している。近くに住む職員も多く、災害時には近隣住民の協力も得られる話し合いができています。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導の声かけなど小さな声で誘導、自尊心を傷つけないよう声かけに注意している。 | トイレ誘導などの際は羞恥心に配慮した言葉かけで支援している。職員は守秘義務については研修で学んでおり、ホームの外では利用者や職員の個人情報を漏らさないよう徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常職員は、本人が自分で決定出来るように、声かけしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活スケジュールは決まっている。その日の希望にそって図書館に入ったり買い物に同行している。しつこく言わずに本人のペースを大切に心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の要望を聞きボランティアで散髪を支援している。本人の要望で季節のおしゃれができるよう洋服の買い物に同行している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食を職員も同じ物を一緒に食べ楽しく家族的な雰囲気になるよう心がけている。食べた食器はできる人はカウンターまで運んでくれる。 | 調理を専門にする職員を配置し、食材は食材業者から取り寄せたもので献立を立てている。利用者はテーブル拭きや下膳、食器を拭くなどできることを行っている。訪問当日も旬の筍ご飯など旬の食材を使い彩りも良く、食欲をそそる食事が提供されていた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は一人一人その日の状態に注意している。必要量摂取できるよう声かけ、見守り対応している。状況に応じてきざみ食、ミキサー食を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご本人の能力に合わせ歯磨き・義歯の洗浄等支援している。週1回歯科衛生士がきている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとり排泄時間を記録し排泄パターンを把握し見守り、声かけ、誘導しながら自立に向け支援している。 | チェック表を基に一人ひとりのパターンを把握し定時誘導を行い、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間も声かけによりトイレに行く利用者もいる。入居時はオムツだった人がパットに改善した事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質の多い食材を提供、水分摂取の声かけを行ったり、体を動かすよう働きかけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 無理強いせずに拒否の合った時は次の日に支援している。一人ひとりの状況に添って柔軟に対応している。 | 最低週2回は入れるよう支援している。着替えなどが億劫で入りたくないという利用者もいるが、タイミングや声かけを工夫して対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 晴天の日は布団を干し、気持ち良く寝付くことができる様努めている。眠れない時には職員が話し相手になり安心できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 現在服薬中の薬ファイルを作り職員で共有し毎日服薬・症状の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 野菜・お花に水をやってくれる人、掃除と一緒にやってくれる人、一人ひとりに合った場を設け生きがいとなり楽しめるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 天候の良い日には散歩に行ったり、本人の要望で買い物へ行ったり、希望にそって出かけられるよう支援に努めている。 | 気候の良い時期には車いすの利用者も一緒に散歩に出ている。また、玄関前は日当たりも良く、広いスペースにはベンチも置かれており、みんなで日光浴をしたり、時には外でおやつを楽しむ、また花の水やりをするなど、外気に触れる機会を持つようになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理できる人にはご自分で管理してもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族からの送付物が届いた時は、本人の希望によりお礼の電話をかける支援をする。家族からの電話の取次ぎや年賀状・手紙等の投函の支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関に季節の花を飾り、庭には季節を感じられる木や花を植え季節感を採り入れている。各部屋には温度計を置き温度管理に気をつけている。壁の飾りは不快や混乱を招かないよう最低減に心がけている。 | リビングにはソファを置き、庭にもベンチがあり、利用者が寛げる場所をつくっている。また清掃が行き届き、玄関には季節の花を飾るなど気持ちよく過ごせるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにソファを設置し気の合った人と過ごしている。外にはベンチを置き天気の良い日は外気欲・お茶を楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には使い慣れた物を持ってきて頂き、居室には毎月自分で塗ったぬり絵カレンダーを貼って本人が居心地よくくつろげる様工夫をしている。 | 各居室とも清掃がきちんとされており、清潔である。テレビや机などを持ち込み、一人ひとりが安心して過ごせるような居室にしている。入居時に家財道具がない利用者もいるがその場合はホームで用意するなど支援をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ・廊下・浴室には手すりを設置。各部屋には名札や似顔絵を貼り自分でわかるよう工夫している。 | | |